2022 TOP INTERVIEW

Personal Question ❶座右の銘や好きな言葉 ❷今、夢中になっていること ❸休日の過ごし方

パームロイヤル
高倉 幸一 社長

たかくら・こういち　1948年生まれ、那覇市出身。慶応義塾大学商学部商学科中退。78年高倉不動産代表取締役に就任。91年パームヒルズゴルフリゾート開業。2005年にホテルパームロイヤルＮＡＨＡ開業。12年、同ホテル代表取締役社長。

❶公私一如　❷ゴルフ、生け花　❸筋トレ

―昨年を振り返って。

新型コロナウイルス感染拡大の長期化で、特に観光業は相当な打撃を受けました。当ホテルでは独自のガイドラインに沿って、感染対策の徹底を常に心掛け、結果的に現在まで1人も感染することなく運営を続けています。コロナ対策として、常に二つのフロアを空室にし、万が一の時は専用フロアにするなど、安全安心の受け入れ態勢を整えました。

そうした取り組みがお客さまからも評価され、稼働率は厳しい状況の中でも平均値より高く推移することができました。屋外にあるプールは風通しが良く密を避けられるので、コロナ対策という意味でもよかったと思います。今年はコロナ禍から経済が回復していくと想定し、より充実したサービスで稼働率を高め、しっかりした経営基盤をつくることが大きな目標です。

「質を追求する観光」目指す

―新ホテルの開発について。

30年前から構想していた一銀通りでのホテル開発に着手し、昨年11月に起工式を行いました。一室45平方㍍以上のラグジュアリーなリゾートホテルで、P・D・Sという会社に運営を委託し、2023年夏の開業を目指します。本島北部の高級リゾートホテルを利用される富裕層のお客さまが、那覇市内に同じ条件で泊まれるようなホテルはこれまでなかなかありませんでした。那覇には沖縄の文化芸術が集中しているほか、街中でのナイトライフも十分に楽しめます。

1年後にはインバウンドを含めて観光需要がV字回復することを見通し、富裕層の方々が沖縄観光の拠点として宿泊してもらえるような、長期滞在型のホテルを目指します。また、レストランは手頃な価格帯で和食や洋食、鉄板焼きなどを幅広くそろえる予定なので、県民の利用も促していきたいです。

―業界の動向と将来の展望は。

沖縄観光は、コロナ禍をきっかけに量から質をより追求する時代にシフトしていくと思います。ハワイでもコロナの影響で観光客が激減しましたが、海がきれいになり自然環境の改善がみられました。沖縄でも美しい自然を保護して体験してもらうためには、量ではなく質を求める観光が必要です。消費単価を上げるために、知恵を絞りながら食や工芸などのコンテンツを充実させることも大切だと思います。

―社会貢献活動の取り組みは。

ライフワークとして、障がいのある人たちのアート作品を集め、ホテルに飾ったり絵画展を開いたりして、彼らの素晴らしい発想で描かれた作品をもっと表に出していきたいと考えています。作品に価値が生まれることで、彼らのやる気や希望につながればと思います。私たちは社会で生かされています。少しでも社会に恩返しできるような活動を続けたいです。

―新年の抱負をお願いします。

天の時を見定めて、地の利を生かし、人の和を育む。事業をする上で常に心掛けていることです。これからも常に夢を持ち続けて、そこに向かってチャレンジをしていきたいです。

HOTEL パームロイヤル NAHA
〒900-0013 沖縄県那覇市牧志3-9-10
TEL: 098-865-5551 www.palmroyal.co.jp

ぬちまーす
高安 正勝 社長

たかやす・まさかつ　1947年生まれ、うるま市出身。琉球大学卒。南西航空（現ＪＴＡ）勤務を経て、97年にベンチャー高安有限会社設立。2006年株式会社ぬちまーすへ商号変更。

❶人間万事塞翁が馬　❷島バナナを育てること。新品種を作りたい　❸庭の草むしり

―2021年を振り返って。

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、店舗への来客数が減少したため大幅な減収を危惧していましたが、ふたを開けてみると卸売りの売り上げが大きく増加し、驚きました。またネット販売も安定しており、過去最高の年間売り上げを見通しています。在庫は底をつき注文は2か月待ちの状態で、営業の現場からは「あまり宣伝をしないでほしい」と注意されたほどです。詳しい要因は不明ですが、健康志向の高まりが背景にあると考えています。

一層の増産体制構築目指す

―2022年の重点施策は。

3月にはコロナ禍の影響で2年ほど遅延していた、新工場建設に着工できる見込みです。5億5千万円から6億円ほどかけ、現工場に併設する形で10月頃の完成を目指します。年間生産量は現在の100㌧から2・5倍の250㌧に増加します。倉庫も造りますが、それでもすぐに在庫不足に陥ると思います。限られた量を少しずつ生産していてもきりがないので、一気に生産量を20倍程度にする大幅な刷新が近く必要になると考えます。

また提携している食品製造大手の伊那食品工業（長野県）と協力し、全国展開も加速します。同社からはぬちまーすをPRする本も出る予定です。

―今後の課題と戦略は。

少しずつ理解は進んでいますが、塩は健康に悪いというイメージはまだ根強いです。ぬちまーすはカリウムやマグネシウムなど人間に必要なミネラルを豊富に含んでいるのに、まだまだそれが浸透していない。今後は塩化ナトリウムの量を調整した商品の展開などに取り組みたいです。

また、ぬちまーすは生理痛の緩和に効果があるというデータも出そろってきました。塩は生命に必要なもので、親子の健康にいいということを広めていきたいです。

―社会貢献にも積極的です。

2010年から実施している、うるま市内の小学校給食へのぬちまーすの提供は在庫不足の中でも続けています。累計は金額で6500万円ほどになりました。子どもたちのために会社がある限り続けていきたいです。また工場隣のショップでは県内アーティストの作品を展示・販売するなど、文化振興にも取り組んでいます。

―2022年の抱負を。

2年越しの課題だった工場の増設にやっと着手できますが、これで終わりではなく、さらに次の増産体制への検討を始める年になります。大幅な増産体制の構築には機械化などの技術革新が不可欠になると思います。

塩が持つイメージを変え、「ぬちまーす」という言葉を世界中に広げたい。そして、ぬちまーすと取引することがブランドの向上につながる、と言われるような企業になることが目標です。

トランスコスモス
松原 健志 取締役 専務

まつばら・けんし　1964年生まれ、鹿児島県出身。九州大学卒。2019年トランスコスモス取締役専務執行役員就任（現職）。05年より沖縄のコンタクトセンター事業に従事。

❶敬天愛人　❷毎週土曜日の料理　❸ゴルフとランニング、デジタルでＳＤＧｓに貢献

―御社のプロフィルを。

1999年にコールセンター事業を15人でスタートし、現在は県内9拠点でコンタクトセンター事業、デジタルマーケティング事業（ウェブ制作）、BPO事業（設計業務・技術的なサポート業務・バックオフィス等）の3事業を手掛けています。従業員数は約5100人で、7割が女性です。創業以来、一貫して注力しているのは、CS（顧客満足度）の向上を図りながらいかにES（従業員満足度）を高めていくか、です。近年は「デジタル」をキーワードに、事業サービス自体を進化させる一方、業務を効率化し、従業員が働きやすくなるよう取り組んでいます。

DXで顧客も社員も幸せに

―2021年を振り返って。

コロナ禍の中、感染拡大を防ぎながら事業継続できるようマネジメントし、体制を整えた年でした。基本的な予防策を徹底し、PCR検査、職域接種を行いました。各事業で在宅勤務を進め、デジタルマーケティング事業では9割が在宅勤務を実現しています。

人材育成関連では、29年の30周年に向け、当社がどんな姿になっていたいかを若手メンバー中心に模索する取り組みを始めました。彼らは社外研修などに参加し、ワーク・ライフ・バランス、つまり、仕事での成長と働き方、プライベートの充実をミックスさせた上で事業サービスをどう展開するか、積極的な姿勢を見せてくれています。新たな業務としては、グローバルに展開している企業のサービスを、当社の韓国、マレーシア、沖縄の拠点で連携し、お手伝いさせていただきました。

―SDGs、地域貢献について。

「沖縄SDGsパートナー」に登録させていただいているほか、従業員の意識を高める取り組みをしています。もともと当社の経営はSDGsと重なりがあります。ダイバーシティを重視し、従業員の性別や年齢は多様で、在宅勤務の推進、ハンディキャップのある方々への配慮など、いろいろな形で働きやすい環境を作っています。昨年の「Resortech Expo 2021 in okinawa」で発表した、ウェブ上での接客、ブロックチェーンを使った個人情報漏えいリスクのミニマム化など、デジタルを活用した効率的で付加価値の高いサービスで社会課題解決のお手伝いをしていきたいと考えています。

―2022年の取り組みについて。

コンタクトセンター事業は、電話対応から少しずつ、若い世代に親和性が高いチャットなどノンボイスの方向へシフトし、デジタルの領域を増やしていきます。また、カスタマーサービスのDX化として、ウェブマーケティング事業とコンタクトセンター事業のスタッフが連携し、ユーザーのお問い合わせを一貫した流れで対応できるサービスを提供、事例を増やしながらお問い合わせの際のユーザーストレスの解消に挑みます。当社のビジョンは「コミュニケーションの力で人の幸せと豊かな社会の架け橋となる」です。新年も、デジタルと人で最高のサービスを提供してまいります。

trans cosmos people & technology
トランスコスモス株式会社
〒170-6016 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60
お問い合わせ TEL.050-1751-7700（代表）
マーケティングチェーンマネジメントセンター沖縄
マーケティングチェーンマネジメントセンター那覇壺川
マーケティングチェーンマネジメントセンター那覇
マーケティングチェーンマネジメントセンター沖縄コザ
マーケティングチェーンマネジメントセンター那覇県庁前

都市建築設計
野原 勉 社長

のはら・つとむ　1953年生まれ、八重瀬町（旧東風平町）出身。日本大学卒。78年に入社。92年から現職。2016年～20年まで県建築士事務所協会会長を務めた。19年度春の褒章で黄綬褒章を受賞。

❶一生懸命　❷音楽を聞きながら朝５時開始のウオーキング　❸ゴルフ

―御社のプロフィルを。

1978年に創業し、地域に支えられ今年で44周年を迎えます。「設計」を通し、安心で安全、人・環境に優しい街づくりに貢献しています。公共施設の設計・監理をメインに、医療福祉施設、複合施設・マンション・共同住宅・一般住宅などの設計・監理を行っています。建物耐力度調査、建物物件調査、用地補償全般と多岐にわたる業務も行い、地域に密着した企業を目指しています。常に変わり続ける社会環境や地域社会の幅広いニーズ、お客さまの思いに応えるため、経験・実績を生かし、新しい知識・技術を探求し続けています。また、沖縄県の「おきなわSDGSパートナー」に登録し、精力的に取り組んでいます。

人と環境に優しい街づくり

―SDGsに取り組むきっかけは？

わたしは2代目で、92年に創業者から継ぎました。当時の建築設計業界は、働き手である若者たちの人生観が変わり始め、福利厚生の充実を求めるようになりました。求人の面でも課題であっただけに、次世代が健康で働きがいのある職場環境になるよう、給与、企業年金、中退金、保険などを見直し、福利厚生の充実に努めました。

例えば、2020年に完成した本社ビルには社員食堂を設け、従業員に栄養バランスのよいおいしい食事を安価で取ってもらっています。そのような取り組みをしているうちにSDGsを知るようになり、当社の方向性と重なることに気付きました。

社長就任時に、それまで培ってきた事業を通じて社会に貢献しようという初心を抱きました。当社の事業自体、SDGsの目標のひとつ「住み続けられるまちづくりを」と重なりますが、地域貢献として「未来づくりパートナー」（玉城千春さんが県内小中学校を巡る特別授業「未来へ#いのちを歌おう」）の協賛などに参画したいと思うようになりました。

―近年の業界の動向は？

設計業界はこの2年間、コロナ禍により民間等の需要が減り、厳しい状況でした。今年こそ感染終息を期待します。業界では近年、設計ツールで大きな改革が起きようとしています。実は、約30年前、建築設計の図面が手書きから2次元CADに替わるという大改革がありました。その後、三十数年たち、2次元CADに比べて格段に効率的で、業界の技術者不足を補ってくれるBIMという3次元CADが登場しました。コストがかかりましたが、いち早く導入しました。自分の技術を向上させたい若者たちが、BIMに投資し挑戦している設計事務所に注目してくれると期待しています。

―新春メッセージを。

従業員に向けては、自分の存在を常に感じてほしい。会社内や家庭内での自分の役割を認識してほしい。そして、常に一生懸命やってほしい。設計業界に向けては、若い人に魅力的な業界であるよう環境づくりに努めたい。将来的には、当社に限らず業界の若い人たちを集め、質の高い講習会を開くなど人材育成に取り組みたいですね。

TOSHI
一級建築士事務所
株式会社都市建築設計
〒900-0024 那覇市古波蔵四丁目1番1号
TEL(098)832-1102　FAX(098)832-7733
E-mail info@toshik.jp
URL http:toshikenchikusekkei.com